

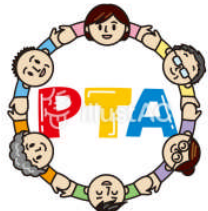


## 保護者と学校の「これから」

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

今回のテーマは、「保護者と学校の『これから』」としました。「PTA」について保護者や地域の皆さんと考えてみたいと思ったからです。

改めて、「PTA」について確認します。「PTA」とは「Parent-Teacher-Association」の略です。日本語にすると、「保護者と教職員の会」のことであり、もう少し詳しく言うと、「保護者と教職員が協力し合って教育効果をあげようとする、学校単位に結成された教育組織」のことです。ウィキペディアには、次のように記されています。



「日本におけるPTAは、各学校で組織された保護者と教職員による社会教育関係団体である。児童・生徒はPTA会員ではないが、皆等しく活動の支援対象者である。任意加入の団体であり、結成や加入を義務付ける法的根拠はなく、全ての児童生徒のための無償ボランティア活動というのが、本来の在り方である」

上記の解説の中で、特に波線が引かれた箇所を読んで、「あれっ？」と思われた方がいるのではないのでしょうか。恥ずかしながら、私は教員のときに、「PTAは学校の一部」と思っていて、学校と別の団体だという意識はありませんでした。そのため、保護者も教職員も全員が「PTA」に加入するものであると考えていて、会費を支払うことは当たり前だと思っていました。そして、毎年4月の学級懇談会は、「学級PTA役員決め」を行い、嫌がる保護者に何度もお願いして役員を引き受けてもらっていました。

現在、日本中の多くの学校で「PTA」の様々な問題が明らかになってきています。「PTA」は本来、保護者、教職員とも本人の意思で加入・活動する団体ですが、否応なく会員として扱われ、会費を徴収されています。また、「PTA」は、「保護者と学校が協力し合う場」と言われながら、「協力」の中身は「保護者が学校にお金や労働力を提供すること」と認識されていて、保護者と学校との関係が決して対等ではありません。更に、「PTA」として取り組む業務が長い間検証されず、毎年学校から依頼されることだけを繰り返すことで、魅力がなくなり、役員を引き受ける保護者がいなくなっています。



PTAの役員決め...

本校では、これまで4回のPTA役員会が行われました。その中で、休み時間の確保や修学旅行・宿泊研修の在り方など、多くの学校課題を御指摘いただき、学校改善につなげることができました。また、学校評価の改善に当たり、保護者アンケートの質問項目の見直しや、結果分析、課題項目に対する改善策の検討にも取り組んでいただきました。5月の環境整備作業では、ビニールハウスの設営や畑の土おこし、窓ふきなど精力的に取り組んでいただき、快適な環境をつくっていただきました。高橋会長には、学校経営上の課題の相談に乗っていただき、その度に的確なアドバイスをいただいていた。

PTA役員の皆さんには、お世話になりっぱなしの1年であったと実感しています。しかし、日本全国で起こっている問題は、本校にとって対岸の火事ではありません。「PTAとは何か」、「保護者と学校の『これから』をどうするか」、改めて皆さんと考えていく必要があると思います。